

(別紙2-1) 平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	〒859-5361 長崎県平戸市紐差町450番地		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyoCd=4270700257-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号
訪問調査日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑い声の響くホールは陽が差しこみ明るい雰囲気です。日頃より細目な清掃に努めております。外を眺めれば四季折々の季節感を味わう事ができ、皆さん散歩やドライブを楽しまれています。健康維持・便秘対策としてカスピ海ヨーグルトを提供し、また毎月誕生会や行事の際には、利用者様が希望されたメニューを手作りで提供して大変喜ばれています。

台所からの野菜を刻む音、炒め物や煮物の音、色んな料理の音を聞きながら、同時においしそうな香りがホール中に立ち込め、自然と利用者様より「今日のごはんは何〜?」との声が聞かれる毎日です。利用者様、ご家族様と一緒に泣いたり笑ったり、あたたかい一つの家族のようなそんな施設を目指して職員一同頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平屋建築の1ユニットで、リビングから廊下・居室まで全体的にゆとりのある造りになっています。リビングや居室の窓からは山々や田畑の景色が広がり、移りゆく季節の変化を楽しむことができます。リビングスペースには南側の大きな窓方向にソファが半円形に配置されており、利用者は皆の顔を見渡しながらか好きな唄を歌ったり、職員も交えて談笑したりと思いの時間を過ごされています。

ホーム内は家庭的な雰囲気、穏やかな人柄の施設長のもと職員は互いに協力し合いながら業務に取り組まれています。自分の得意な分野を活かしてアイデアを出し、お互いにサポートし合いながら利用者に喜んで頂けるようなサービス提供に努められています。また、毎日笑顔で接して利用者のお話をきちんと傾聴するように心がけ、現状よりも更に利用者の望む生活を理解するよう注力されています。

ホームでは毎日の生活に欠かせない「食」も重要な事柄と考え、利用者の食の安全と楽しみを支援されています。敷地内にある家庭菜園では、四季を通じて大根・白菜・パセリ・ナス・きゅうりなどの様々な野菜が作られています。利用者と共に育てて収穫し、調理まで手伝ってもらいメニューとして食卓に並べることで利用者の満足感にもつながっているようです。毎食提供される米も地元産の天日で干したものを玄米で購入されており、ふっくらして美味しいと高評価を得ています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に職員全員で理念を復唱。1日のスタート時に、チーム全体として再確認を行っている。大きな声での復唱後、ホールで過ごされている利用者様より時折拍手を頂く事もある。	理念には、法人全体のものとしてグループホームのものがあり、両方とも大事されています。笑顔と真心をモットーに利用者へ寄り添い、我が家のように寛いでもらえるように支援が行われています。折にふれ、理念に沿った援助が行われているかを話し合い、再確認もされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	紐差町第3区2班として自治会に所属し、次長が委員として会合や地区清掃等に参加している。利用者様も回覧板を閲覧され、市や地区の活動・行事等を知られている。	近隣との付き合いや清掃などの奉仕活動に熱心に取り組まれ、地域の人々とは良い関係を築かれています。近所の人が大正琴の演奏でボランティア訪問をされたり、近くの小学校の運動会で利用者も児童と一緒に競技に参加したりと様々な交流が見られます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の行事に参加された際に相談を受けたり、近隣のひとり暮らしの方の様子を見に行ったりして困っている事がないか等、普段から携わっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、利用者ご家族、地域の委員の方、市役所介護保険班の方を招き、2か月に1回(年6回)開催し、現状報告や意見交換を行っている。指摘事項は随時改善できるよう、朝礼等で職員へ報告を行っている。今年度より、第2グループホームとの兼ね合いで開催時間は14時からと15時からを交互に行っている。	2か月に一度運営推進会議が開催されています。日常や行事の報告の他に、事故やヒヤリハットの公表も行い、その後の対策などもきちんと報告されています。出席者からも様々な角度から質問や意見が出され、運営に活かされています。	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、2ヶ月に1回の現状報告の中で詳しく説明を行い、随時質問や意見等頂く事ができている。	施設長は、市役所の介護保険事業の委員を務められており、行政との連携も図られています。担当者にはホーム内の出来事や報告なども随時行われており、行政機関と相互協力の出来る間柄が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が自分の意のままに動かれる様になっている為、たまには玄関から出て行かれる事もあるが、遠隔の見守りや職員が傍について行動を共にする事で、(時には興奮されている状態であっても)落ち着かれています。	身体拘束を行わない方針で日々のケアに取り組まれています。多動が見られたり興奮されている時は、無理に抑制をするのではなく、職員は業務の手を一旦止め、お茶を飲みながらゆっくり話を聞くなど、利用者の心に寄り添い不穏が消えるように努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	DS利用者様の場合、アザ等身体の異変を発見した場合は、担当ケアマネジャーへすぐ報告を行っている。身体拘束・虐待防止の研修に参加した他部署の職員を講師として招きいて勉強会を行ったり、研修報告会(平戸荘職員全体の伝達講習会)にて施設全体の意識向上を目指して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、研修報告会等での知識を元に必要時は活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前の時点で自宅を訪問したり、ご家族やご本人の来荘の際に契約を交わしている。その際、ご利用にあたっての不安や疑問点等がないかを尋ね、説明を行い理解や了承を得ている。またいつでも質問等を受け付けている旨をお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に要望を尋ねたり、サービス計画書作成時には面会や電話にて生活に対する意向を確認している。意見箱を設置し、家族会前にはアンケートを配布して回答を頂いたり、内容は職員間で周知しすぐに改善できるように対応している。	家族の要望や意見を面会時に聞いたり、満足度調査のアンケートを実施したりと様々な方法を取り入れながら意向の把握に努められています。利用者の意見についても、日頃の会話から希望を拾い出すよう心掛けられ、利用者の情報を全職員で共有されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議での情報や意見交換、提案等を管理者へ報告し、サービスの質の向上へつなげている。(他、各種委員会、拡大会議、人事考課表記入後の面談等あり。)	産前産後の休暇や育児休暇・定年時期の延長など、働く意欲のある職員が長く働き続けることが出来る環境づくりに取り組まれています。会議の場においては職員からの意見がよく出ており、可能な限り運営に反映させるよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会福祉法人白寿会として、人事考課制度キャリアパスシートの導入し、各職員の希望や状況把握に努めている。また配置基準以上の人員配置により、有休等の活用もできるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年齢に関係なく、新任・中堅・リーダー各人の状況を把握・判断してフォローアップ研修へ参加し、また県・市各機関の認知症に伴う研修への参加等、人事育成や個人の業務へ取り組む意欲の向上につながるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	利用者様の親善交流風船バレー大会や、施設職員間のソフトバレー大会にて交流、意見交換が行っている。今年度は、第二グループホーム、グループホームかぶとむしと合同で、ケアプラン作成にあたっての勉強会を行い、同法人内での統一を図る事ができた。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当ケアマネジャーからの基本情報を元に、その方を知る事でよりよいサービスが提供できるように職員間の連携を密にしている。また、ご本人への言葉かけを多くしてゆったり話を聞き、利用者様がどんな事を考えているのかを知る事で、安心できるサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がゆっくりと相談できる雰囲気作りを心がけ、今後いつでも気軽に相談に応じる事を伝える事で、安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーと密に情報交換を行い、サービス開始前にご家族やご本人の意向を把握できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様のできる事や知識等を職員が教えて頂いたり、相談や助言を頂く事で、共に支え合う関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で随時ご家族の意向を確認しながらサービスの提供に努めている。面会の際は、ゆっくりと団欒が持てる雰囲気作りに努め、普段の様子を報告し、ご本人がご家族の面会を楽しみに待っておられる事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や外泊が可能で、利用者様が希望を尋ねながら随時ドライブに出かけている。ご家族以外の面会や、併設のデイサービスやショートステイを利用される方が、利用者様へ会いに来られて交流をされる事もある。	利用者の馴染みの人との関係や思い出を大切にしながら支援が行われています。利用者の知人や友人に気軽に遊びに来てもらいたいという願いから、来客時には笑顔とおもてなしの心で接し、帰りの際には「またお待ちしております」と言葉をかけるように努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、意見の違う場合には職員が仲介役となって対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様が来荘して下さったり、自宅で採れた野菜や果物を頂く事もあった。随時、困った事がないかを尋ねたり、ご家族に声かけを行う事で喜んで頂いた。また死亡退去された方の葬儀には必ず参列し、初盆の際には管理者がご挨拶に訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望等を気軽に話せる雰囲気作りに努め、ご本人らしく過ごして頂けるように配慮している。意思確認が困難な方は、ご家族に以前の生活を尋ねたり、表情を観察しながら穏やかに過ごして頂けるよう努めている。	本人の気持ちの把握に努め、行動パターンや嗜好の変化などにも常に気を配りながら、利用者がマイペースで安心した日常を送れるよう援助が行われています。レクリエーションも歌や絵画の教室・風船バレーなどがあり、自分の好きなものに参加して日々の生活を楽しまれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネジャーからの情報を元にアセスメント表を作成し、職員がいつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング時の申し送りや、申し送り帳を活用して現状変化の把握に努めている。利用者様の得意分野を活かせるよう、野菜の皮むきや縫い物、毎日使う新聞やペーパー折り等を依頼して作業としても取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者は各担当利用者様の把握に努め、担当者会議やグループホーム会議にて意見交換を行っている。計画書作成時には、ご本人やご家族の希望を聞きながら課題を見つけて、ご本人の希望に添えるように努めている。	ケアプランについては、各担当職員により毎月モニタリングが実施されています。サービス計画実施票や評価を参考に、家族や本人の意見も考慮して更新ケアプランが作成されており、サービス担当者会議により他の職員の気づきも得られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員の情報共有の為、申し送り帳や口頭での引継ぎ、ケアノート(PC)への入力を行い、モニタリングにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診以外の受診(時間外でも対応)や、入院された折の洗濯サービス、定期的な面会、医療関係者との連携を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仏教の法要、神父様の友愛訪問、小中高生・婦人会・民生委員の方のボランティア訪問、地域の行事やお祭り等への参加、各地域への季節に応じたドライブ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用様はそれぞれ入居前よりのかかりつけ医を受診され、異常や特変があれば随時家族に報告している。受診には診療経過表を持参し、前回受診の記録や服薬の確認ができるように努めている。	本人・家族の意向に沿い、入居以前からの医院での継続受診も可能です。状況に応じてホームの委託医の往診なども行われています。利用者の健康管理については、敷地内にある法人施設の看護師とも情報を交換し、助言してもらうなど協力体制が整っています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設として特養に看護師が在中している事により、安心して業務に取り組み、体調不良時や急変時の指示を仰いだり、いつでも相談できる関係を保っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者様の状態を伝える為に介護サマリーを作成し、病棟看護師に渡している。また定期的に面会に行き、その都度病棟師長をはじめ看護師の方に病状確認を行っている。電話でも連絡を頂いたりと良好な関係が保たれている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの事例はなく、地域のチームとしての支援は行っていないが、入居契約時点でグループホームの体制としてできる内容の説明を行い、終末期の意向確認書にてご本人やご家族の現在の意向の把握に努めている。	看取りの実施は検討中の段階です。家族との話し合いや利用者本人の状態に応じて、終末期に入っても出来る限りのサポートをしたいといった意向も持たれています。その点については、入居時に本人や家族へきちんと説明が行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員は消防署の救命救急講習を受け、緊急時に対応できるようにしている。また職員は吸痰講習終了者を配置し、未講習の職員も今後受講の予定となっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	緊急連絡網の夜間呼集訓練や、夜間消防署や地域の消防団との夜間避難訓練を開催している。職員は消防署の初期消火操法の大会にも参加している。火災を未然に防ぐための対策としては、防災カーテンを使用したり、コンセント部の細目な清掃等に努めている。	日頃から防災に対して意識を高く持ち、防火・防災に取り組まれています。避難訓練後は、反省会で話し合いが行われ、次回に繋がられています。非常時の水・食料の備蓄は、ホーム1階部分の駐車場にある備蓄庫に保管されています。消防署主催の消火大会では優勝されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に合わせた言葉かけ(気配り・心配り)を常に配慮しながら対応している。個人に対して気になる点がある場合には、夜間帯等にゆつくりと話せる時間を設けている。	職員は利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーやテリトリーを大切に考えながら個別対応に努められています。居室に入る時は本人がリビングにいる時も了解を得て入室し、親しさの中にも節度を忘れないように心掛け、慣れ合いの関係にならないように努められています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や選択肢が選べる言葉かけや、希望を話せる様な雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調を把握し、希望に添って過ごして頂けるよう支援を行っているが、重度の方への介護量が多く、元気な方へのサービスまで手が回らない現状があったり、一人ひとりへの細かい関わりが難しい場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的にはご本人に上着を選んで頂いたり、行事の際のお化粧品や、好みの衣装の選択ができるように支援をしている。また定期的に美容師資格所持の職員による散髪や白髪染めを行い、ご本人ご家族からも喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭き、お茶入れ、配・下膳、茶碗洗い等を利用者様にも依頼している。また野菜の皮むき・ごぼう削ぎ等の日常的なものから年間を通しての梅干し作り等を一緒に行っている。誕生会にはその方の希望のメニューを手作りで提供している。	栗ご飯など季節を感じられる食材をメニューを取り入れ、毎日の食事を楽しんでもらえるよう支援されています。クリスマスにはケーキと一緒に作ったり、ホームの畑でみんなで芋掘りし焼き芋にするなど、利用者が喜ばれるような食の演出も行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・おやつ時・入浴後等の定時以外でも、いつでも水分摂取ができるように配慮している。管理栄養士の献立表を元に個人に合わせた刻みの程度やトミ付けを行い、食器等も随時工夫をしながら、自力摂取を促せるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お茶のうがい水と歯みがき後に洗浄を行っている。一人では困難な方には介助を行い、義歯は外して洗い、口腔内の観察にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗なく排泄を行って頂く為に、時間を見ながら個人に合わせた早めのトイレ誘導や声かけを行っている。また排泄表のチェックにより排便状態を確認しながら、下剤の調整を行っている。	利用者の自立排泄を大切に考えられています。座位がとれなくても便意がある利用者には、職員が二人で介助し、トイレの便座に座れるよう支援が行われています。トイレ誘導は排泄チェックシートを利用して早めの言葉かけに努められ、周りに聞こえないよう配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操やレク体操等の運動を取り入れている。便秘対策としては10時にカスピ海ヨーグルト(冬場は少し温めて)、15時には健康茶を提供し、夜間帯起きられた方にも随時水分補給を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	家庭的な雰囲気や心掛け、入浴や季節の物(菖蒲湯や柚子湯)で変化をつけたりして楽しんで頂いている。時々お風呂場より歌が聞こえる事もある。個人の体調・体力等を考慮して曜日や時間帯は職員が決めているが、希望があればいつでも入浴可能となっている。	お風呂は毎日準備し、本人のペースを考慮して入浴計画が立てられています。現在、特に拒否される利用者もなくスムーズに入浴が出来る状況です。入浴出来ない時や拒否が続く際は、ホットタオルで清拭を行い清潔の保持に努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や意向を考慮しながら、必要時は居室での休息を勧めている。寝具は定期的に交換(洗濯・日干し等)を行い、いつも清潔を保持できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診にて内服薬が変更となった場合は必ず記録を残し、処方箋で再度確認の元、口頭や申し送り帳にて職員全員で周知を行っている。服薬前は職員2人での確認と呼名にて介助を行い、確実に服用されたかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫・テーブル拭き・洗濯物たたみ等、利用者様がそれぞれ得意分野を發揮して活動されている。誕生会ではご本人の希望メニューを提供したり、普段より歌やゲーム等のレクレーションを取り入れ、また外気に触れる機会を多くしたりと活性化を図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設回りの散歩、買物同行、季節毎に自然ふれる為のドライブ、地域の行事などへ参加できるように支援している。またご家族が外出・外泊を希望される場合も随時応じている。	近所への散歩や回覧板回し、スーパーへの買い物など日常的に外出支援が行われています。平戸市内のあちらこちらに気軽に出かけられ、外食支援も行われています。福祉まつりやひな祭り、夏は近くの海水浴場に海遊びに出掛け、スイカ割をするなど様々な企画が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い金としてお預かりしている事をご本人にもお伝えしている。買い物等は希望があれば随時検討し、高価な物の場合はご家族にも相談の上購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望に応じて、随時電話をかけてお話しをされ、対応した職員が対応記録に記入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾り、食事の際には音楽を流して和まれている。また季節毎の絵や写真を飾って楽しんで頂いている。日差しがまぶしい場所には遮光用にカーテンを取り付けている。トイレトペーパーや手拭き等のペーパー類を設置できない利用者様がおられ、他利用者様には迷惑をかけている現状あり。	広くて明るいリビングは陽当たりも風通しも良く、気候の良い日はバルコニーでお茶を楽しむことも出来ます。ホームの玄関も共有空間部分もすっきりと整頓されていて、車いすでも楽に移動することが出来ます。昼食の後にも床の拭き掃除をされ衛生面にも配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にソファーに座って頂いている事で指定席のような場所ができたり、気の合った特定の利用者様同士の偏りにより調整が取れない場面もある為、他の方が孤立にならないように配慮しながら言葉かけ等を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々と使用できるが、使い慣れた家具やなじみの物を持ち込みで配置されている方は少ない。飾り等も自由に可能となっており、誕生カードやご本人が手掛けた作品を飾る等の配慮している。	昔から自宅で使用されている家具などの居室への持ち込みは自由で、畳を敷き和室として使うことも可能とされています。各居室には温度計が備え付けられており、適正な温度・湿度を管理されています。また、部屋の換気も定期的に行うように努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子が自由に通れる空間、歩行時の妨げにならないように障害物を置かないように配慮している。居室のクローゼットは衣類を表示して収納場所が分かり易いように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			